

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、調査分析能力、協働のスキルと事業管理能力、課題解決能力などの専門的知識を身につけた、隣接他領域にも深い理解を示し、主体的に地域再生に貢献できる人材です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

地域におけるコミュニティ意識喪失への危機感、自然災害によって改めて感じた生存基盤としてのコミュニティ再生と維持などへの対応が求められている中、大学が住民や行政、諸団体等と協働して地域づくりの担い手、課題発見解決型の人材を育成することが地域から求められています。

―なぜこの2大学で連携することになったのですか。

自治体や企業と協力し、多くのプロジェクトで地域貢献してきた宮城大学と、多数の拠点を有し幅の広い社会貢献実績を持つ兵庫県立大学は、両校の強みを活かして連携し、地域の課題解決に取り組み基盤作りを行ってきました。本取組は、両校のこれまでの連携実績をベースとし、社会のニーズに合致した協働教育事業を行うものです。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は推進主体となる教育センター設立準備委員会を設立し、平成25年度からは、教育課程の導入および単位互換システムの体系化、予備的講座、研修会などを開催するとともに、教育センターの本格運営に向け評価委員会の設置やシンポジウム等を開催します。取組終了後における教育センターは、育成される人材とともにコミュニティづくりに取り組み、成果の地域への還元事業などを行います。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

未来を見据えた新教育課程の構築と、単位互換や教員の相互派遣など、新たな仕組みによる共同教育体制を整備します。また地域社会との協働事業の開発により、地域の優れた人材が精力的に参加するコミュニティ・プランナー教育体系を構築し、地域社会のコアとなる教育機関を目指します。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますか、それはどのようなものですか。

大学教育を核とした地域再生サイクルの確立、新しい教育課程の構築、地域と連携する教育センターの運営を行います。コミュニティ・プランナー育成課程については各大学から100名程度の学生が受講する事を想定しており、その育成課程で得た成果を教育課程としてシステム化し、各地の大学で活用可能なコミュニティ・プランナー育成プログラムを確立します。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

コミュニティ・プランナー育成課程の修了生の活躍先は、自治体、農林水産・製造・商業組合、企業、NPO、各種団体などが想定され、両校で毎年60名の卒業生が見込まれます。さらに、一般からの受講生の受け入れなどで、より多くの幅広い分野で活躍する人材が輩出されることが期待されます。また、地域と連携する教育組織を2大学が共同で設置運営することで、公立大学の責務を果たしていきます。

ステークホルダーからのメッセージ

白石市長

風間康静

白石市では、平成23年に策定した第五次白石市総合計画のテーマである「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」を推進するため、今後、住民参加による「花と緑の回廊づくり」を積極的に行って参りたいと考えております。宮城大学様とは、グリーンデザイン分野のフィールドとして先生方、学生さん達と一緒に現状把握、課題分析企画立案、実践と、事業全般にわたって協働して活動させていただき、市内を花と緑いっぱい潤いある都市としていきたいと考えております。

